

セクシュアリティ

■Sex/Gender/Sexuality

セックス・ジェンダー・セクシュアリティという三大話があります。で、セックスとジェンダーの話は終わりました。わかってくださいました？わかりやすいよね？じゃあセクシュアリティはなにか。セックスという言葉からジェンダーが別に区別してうまれ、そしてまた、セックスという言葉からセクシュアリティという言葉が別に区別してうまれた。その理由は、こうです。どちらも、「自然と本能」だと思われていたものから、「社会と文化」が作り上げたものへという風に、パラダイムチェンジをした、ものの見方をがらっと変えたっていうのが、この変化です。ですから、ジェンダー研究とセクシュアリティ研究という学問ができました。私は両方やっています。

■セクシュアリティ研究とはなにか？

セクシュアリティ研究はいつから始まったかっていうと、すごい簡単なんです。1976年からはじまりました。さらに日付があるんです。なんとこの年、フーコーというおじさんが、有名な人ですよ、知ってる？知らない？知らなくてもいいんだけどね、死んだ人だからもう、フフ(笑) (会場：笑) このおじさんは AIDS で死んだっていわれているんだけど、76年に「性の歴史」という本を書きました、これでみんな仰天したんです。

「え？性に歴史があるって？だって、本能や自然に歴史があるの？本能だったら、古今東西変わらないんじゃないの？」

と思っていたのに、

「うんにゃ歴史がある」

っていうことを、明らかにしたんです。しかも、

「男は女を女は男を、本能で追い求める、もんなんですよ？」

というのに対して、彼はなにを明らかにしたかっていうと、ほんの数千年前のギリシャでは、ありとあらゆる性愛のなかで、男性同性愛が一番トップにきてて、異性愛はつまらない価値の低い性愛だと考えられてきた、っていうことを明らかにしたんです。

そこでですね、学問が生まれました。これが **Sexuality Studies** という学問です。それ以前にもう一つの学問がありました。それが **Sexology** という学問です。これは **Natural Science** の一つで、性科学と訳されています。やっていた人たちは、解剖学者、ホルモン学者、医学者、心理学者、産婦人科医、こういう人たちです。**Sexologist** のひとりに、人間の性行動を、あたかも動物がそうするように研究しようとした人がいます。アルフレード・キンゼイという人ですが、この人はなんと、元々は地の研究者だったんです。つまり性は、人間のなかで動物の部分だと、ずーっと思われてきたんです。だから動物学者が人間の性の研究をしたんですよね。ところが、

Sexuality Studies が登場すると、これが自然科学から、人文社会科学へと変わりました。

「性は自然でも本能でもない。性には、歴史がある」

といったのが、フーコーおじさんです。だから、

「あら性って本能でしょ？」

っていったときに、

「イエローカード！」

ってこういう風に、1976 年から言えるようになったんです。もう目から鱗だったわけですね。

■何が privacy とされたのか？

セックスが、なぜこれまで学問研究の対象にならなかったかというと、

「だってプライバシーでしょ。それは人の目に見せてはならないものでしょ、触れてはいけないものでしょ」

と、されてきた。では、プライバシーとはなにか。プライバシーとは、私密的な領域、と考えるんです。で、猥褻行為とはなにか。猥褻というのは英語で、**obscene** といいます。これを、ちょこつとなまると、**off-scene**、といいます。目から見えないようにさせられたものが猥褻で、では猥褻ってなにか。ヘアヌードとかっていいですよ。なんであんなのに高いお金だすのか私わかんないんだけど、お風呂行ってごらんささい、ヘアヌードだらけだから。(会場：笑) お風呂、公衆浴場ですよ？公衆浴場で丸出しで歩いているのは、まったくなんの猥褻でもありません。お風呂入るときに、例えば、公衆浴場でパンツはいて入ってくる人を見たら、気持ち悪くないですか？そっちのほうが猥褻ですよ。(会場：笑) で、あの、**off-scene** ってのはね、**out of place**、つまり場違いなことを言います。そこにあってはならないものが、公的な場に出て来たときに私たちはそれを **obscene** といいます。おっぱい出して、赤ちゃんに乳をやっている母親は猥褻ではないが、公共の場でおっぱいを出している女は、猥褻といわれ、ちんちん出すのは、トイレでは当たり前なことだが、電車を出してると問題なんです。

そういう風に、私秘性の基準というもの、これは社会が作ったルールです。いつからできたか。歴史が浅いことがわかりました。私たちが初めてセクシュアリティの歴史研究というものを持つようになったわけですが、そういう性とか、家族とか、セックス、性、生殖、妊娠・出産、避妊、生理、そのようなものがすべて、私密的な領域だとされた。それに関わって子育て介護も、私密的な領域だとされた。

この私密的な領域は、実は、公権力の介入を排除する、私的な、市民の聖域だと考えてきましたが、ここに実は、トリックがあります。「公権力の介入の排除」とは、同時に、「公権力の関与の排除」でもあります。例えば、ここで性的虐待が行われていようが、

「私知らないもん」

と公権力がいえる。例えば DV が行われていようが、

「私いま殺されそうだから来てください」

とおまわりさんに電話かけても、

「あんたたち夫婦でしょ」

とおまわりさんにシカトされる。というのがプライバシーです。それはさらに例えば、子どもが何人いようが、障害児がいようが、公権力は、

「あんたが産んだんでしょ、わしや知らんよ」

と言える。家に、寝たきりの婆さんがいようが、

「それはあんたの親でしょ。そんなこと政治が責任とる必要ないよ」

と言えるのが、これが公私の分離の原則というものであり、それが長い間、近代社会というものを作ってきました。いま介護保険というものがありますね。介護の社会化、逆の言い方をすると、私事であったケアの脱私事化、英語でいうと **de-privatization of care**、ということ達成したのが、介護保険です。私たち社会学者はこれを歴史的なイベントだと考えます。近代社会が、ここで一つの終焉を遂げた、といってもいいような、ある転機をむかえているわけです。

では、こういうプライバシーは、一体誰を守るのか？性を私秘的な領域に閉じ込めるということは、誰のための、なんのためのルールだったのか？私たちは単に一つ一つの現象ではなく、その背後にある、システムのオペレーション、OSを問います。私的領域不介入の原則とは、私的な領域を市民社会のルールが通用しないアウトロー地帯にしたってということなんです。すごいことですこれは。このアウトロー地帯のなかで、誰が一番強いかっていうと、力が強いのは金持ってるやつ、オヤジですよ。オヤジが一番強いんです。そうするとオヤジの専制権力の行使が、不介入の原則によって公権力によって保障される。

「君好きにしていよ、子ども殴っても妻殴ってもボク見ないふりしてるから」

という契約のもとに置かれたのが私的な領域だ、ということが、次第次第にわかってきました。それで、いまその覆いが次々とはがれていった。これだってジェンダー・セクシュアリティ研究が明らかにしたことです。

DVとよばれる、ドメスティック・バイオレンス、それから子どもへの虐待、子どもへの性的虐待、さらに、高齢者虐待。介護保険のことを、こういう家族の闇に入ったサーチライトだ、という名言をいった人がいます。その人は、樋口恵子さんという、私たちの大先輩なんです。サーチライトってわかります？暗い深海のなかで潜水艦が、バーって光を照らす。そうすると光のところだけ、闇のなかでものが見える。まったく誰の目にも見えなかった私秘的な領域に、光がさした。そのなかで、もうパンドラの箱を開けたみたいに、とおんでもないものが次から次へと出てきたのが、いまの現状ですね。

そうすると私たちは、プライバシーは誰をいかに守ってきたのか。性を私的なものと見なし、それを公的な場に持ち出した途端に、**obscene**だ、猥褻だ、と言ってきたそのルールは、一体なんのために、誰を守るためにあったのかっていう問いを立て直すことができます。公私の領域をもう1回再定義してみよう、なんでこんなもんがあるんだろう、誰がなんのためにこんなもの作ったんだろう、というのは、近代社会の内面そのものにさかのぼるような、根源的な問いです。

■公私の領域の再定義

その一つの応用問題を解いた、とても面白い文献に、私は出会いました。それはですね、「Sex in America」という4000人以上のアメリカ人を対象にした性行動調査のデータなんですが、それをやったアメリカの研究者たちがものすごく面白い概念を作り出しました。やっぱり研究っていうのは本当に面白いです。新しい概念を作り出すことで、それまでとはまったく違う世の中が見えてくるんですね。

見てください、private sex と public sex。public sex ってなんだと思います？、人前で、人に見せながらやるセックスのことだと思います？なんなんだろうねえ public sex って、変だよ。あれ？セックスってプライベートなことなんじゃなかったの、なんでわざわざプライベートとパブリックってわけの？彼らの理論はこうです。セックスには、sex with a partner、と、sex without a partner、というものがある。この二つを区別している。私たちは、sex without a partner のことを別名、マスターベーションと呼んでいる。マスターベーションと、パートナーとのセックスというのは、別なものだと考える。これまでマスターベーションっていうのは、パートナーのいない人が、かわいそうに、貧しい代替物としてやるものだと考えられてきた。だからマスかいてるっていうと、

「かわいそうに相手がいないのね」

って言われてきた。で、そうなるかと相手がいる人にとってはどうなのか。マスターベーションっていうのは、面白いことにカップルにとってタブーです。カップルの間で相手がマスターベーションすると、

「あたしというものがいながら、マスかくなんて、失礼な」

なんて相手が怒ることがあります。従って夫婦の間ではマスターベーションは隠れてやる、なんていうね、変なことがあったりする。あのこういうことも研究でわかるんですよ、ふふ（笑）。こういうことやるのもセクシュアリティ研究です。このようにこれまで考えられてきたんですが、彼らは実証研究をやりました。大変膨大なデータをもとに理論を構築していったわけですが、驚くべきことを言い出しました。まず、sex with a partner と sex without a partner とはまったく異なるカテゴリーに属する。マスターベーションとは、「自己の、自己身体とのエロスの関係」のことをいう。この定義は私の定義です。彼らが十分には言わなかったことを私が彼らに代わって言ってあげている（笑）。で、パートナーつきのセックスは、「自己の、他者身体とのエロスの関係」です。これは、だとしたら、代替できるはずがない。マスターベーションっていうのは「自己身体とのエロスの関係」、それがちゃんと結べない人が、ましてや「他者身体とのエロスの関係」など結ぶとはもってのほかだ。マスターベーションもちゃんとできない人に、パートナーつきのセックスができるわけがない、ということになった。かつ、データからはっきりわかったことは、パートナーつきのセックスにおいて、性的アクティビティーが活発な人ほど、マスターベーションの頻度も多い、その逆ではない、っていうことです。つまり、セックスは、やればやるほど生活習慣になる。やらなければやらないで、やらないことが生活習慣になる。その程度の問題。やらなくても死なない。やり過ぎても別に病気にはならない。ということがわかってい

ます。その程度のものなんです。

こういうことがわかるとなにかがよいかっていうと **private sex** っていうのは、自己の自己身体とのエロ的な関係にのみ切り詰められます。私の身体においてのみ **private sex** というものは成り立ちます。では **public sex** とはなにか。自分以外の人との関係、これはコミュニケーションです。コミュニケーションにあたるのがすべて **public** になります。となると、コミュニケーションならば、あなたの体を使ってよろしいか、あなたの体に触れてよろしいか、あなたの体に侵入してよろしいか、については、当然のように、相手の合意と、人権の尊重が必要になります。セックス一つをとっても、公私の領域の再定義をするということ自体が、やっぱり巨大なパラダイムシフトなんですね。こうやって考えていくと、例えば、夫婦の間に強姦はあるか？というこの問い、いいですか？夫婦の間に強姦はあるかっていうと、法律には夫婦間性的義務、っていうものがあります。相手に合意してやらないと、履行の義務なんですよ。で、そうすると、夫婦の間には強姦はあるのか、っていうと、ほんの 20 年前まで、法律上の争点にない、夫婦の間にある性的義務からいえば、相手が望んだときに応じないのは義務違反であるから、従って夫婦の間にはどんなことがあろうが、強姦という概念は成り立たないということを、法廷が言ってきたんですよ。いいですか？ほんの 20 年前なんですよ？ところが、もし私たちが、**public sex** というものを、相手のあるセックスと定義するならば、相手が妻だろうが娼婦だろうが愛人だろうが誰であろうが、どういう人が相手だろうが、相手の合意と人権の尊重のないセックスはすべて、強制された性行為、すなわち強姦になる。当然のことです。いいですか？こういうパラダイムシフトがあるからこそ、法理論にすら私たちは影響を与えることができるようになってきます。

■性の自由とは何か？

ではプライバシーとは一体なんだったのかを、振り返って考える必要が出てくるわけですが、そろそろ時間なのでコンクルージョンに入ります。

ジェンダーについては、ジェンダー公正、というものを私たちは求めてきた。もう一方で、性については、性の自由、というものを求めてきた。でも性の自由っていうと、

「あ、フリーセックス」

っていう風に、すぐ、短絡的に思う人がいますね？ジェンダー公正、ジェンダー平等のことを、

「あ、男並みになりたい女のことなのー」

っていう安直な理解と同じように、性の自由っていうと、

「あ、やりたい女のことね。要するにフリーセックス OK、っていうのがフェミニズムなのね」

っていう、こういう短絡的な見方っていうのもあります。ただ、ここでちゃんと申し上げておきましょう。「性の自由」には、二つの含意、**implication** があります。一つは、「性 “への” 自由」。

「Freedom "to" Sex」です。もう一つは「性 “からの” 自由」、「Freedom "from" Sex」です。それをもっと易しい日本語でいうと、こういうことになります。

「したいときに、したい相手と、したいように、セックスする自由。したくないときに、したく

ない相手と、したくないやり方で、セックスしない自由。そしてそのどちらの自由を行使しても sanction、sanction っていうのは賞罰ですが、褒められもしなければ、けなされもしない自由。」……解りやすいでしょ？さきほどいった「Sex in America」の調査、全米で 4000 人以上のサンプルを対象にした大規模な調査が明らかにしたのは、こういうことでした。

「人生の幸福度と、セックスの頻度との間に、経験上、どのような相関もない。」

……うけないなあこれ全然（笑）（会場：笑）実感ないんだね君たち、きっと性生活もないからかな？ふふっ（笑）（会場：笑）それとも、ぶりっ子してるからかな？（会場：笑）童貞やバージンぶりっ子？セックスっていうのは、その程度の問題、つまり、粗末にするとしっぺ返しを食らうけれどそんなに大層に考える必要もない。セックスをしてもしなくても、人間が人生を幸せに生きるためにはなんの関係もない。セックスをたくさんしてるから幸せだというわけでもなければ、してないと不幸せだというわけでもないということを、「Sex in America」の調査は、ちゃんと調査結果として明らかにしています。

こういう研究が、研究者チームのもと、ぼう大な調査費用をかけて行われるようになったということ自体がフーコーさんのおかげです。つまり、1976 年以降セクシュアリティ研究というのが学問研究のまともな対象になったからです。したがって、みなさんもまた、こういう研究にはいつか来たいと思えば、どうぞ、ウェルカム。いつでもどうぞおはいいろください。そして、もしあなたの前に、あなたの立てた問いを考えている人が誰もいなければ、あなたはたちまちその分野のパイオニアになり、第一人者になります。私さっき、ジェンダー研究の第一人者といって頂きました。これはすごい簡単なことで、私の前に私のようなことをした人は誰もいなかったというだけのことです。ですから、かっこよくいうとね、

「私の前に道はない。私の後に道はできる。」

どっかで聞いた台詞だね（笑）最後に言いたいのはこういうことです。

「誰もやったことがないからやってみよう。」

こういうのをベンチャーって言いますよね。ベンチャー企業が成長産業を作り出していくんです、IT 産業とかね。学問もまた、ベンチャーです。

「誰もやったことがないからやってみよう。」

「誰も考えついたことがないからやってみよう。」

「誰もこんなことに値打ちがないと思っているからやってみよう。」

と、思って、私が女性学を始めたときには、それで飯が食えるとは夢にも思っておりませんでした。したがって、いま雑誌が回っておりますように、私たちはそうやって種まきをしながら、聴衆とともに、その学問を育ててきました。育ててここまで来たんです。それで、ICU にもジェンダー研究センターというものを創って頂けたんです。田中かず子さんは私と 20 年前にアメリカで出会った、この同じ世代の、パイオニアのひとりです。このジェンダー研究という、新しいベンチャーを一緒に担ってきた仲間のひとりです。

最後のしめくりに一つ、こういうことを申し上げます。30 年前私は鬱々とした、食えない院生でした。そのときに私は、自分と親しくして頂いた先生のところ、愚痴をこぼしに通

っていました。その先生のところにこういう相談を持っていきました。

「先生、私、こういうことをテーマにして研究したいと思うんですけど、でも、世の中見回してみても、こういうことを指導してくれそうな先生がどこにもいらっしゃらないので、指導教官がいないんです。困っています、どうしたらいいんでしょう。」

と私が言ったときに、そのオヤジ先生が返した台詞を、30年後の今日まで忘れることができません。同じことを皆さん方にも、今日お伝えしたいとおもいます。

「馬鹿もん。自分がやりたいことに、この世に指導教官などいると思うな。もし、あなたがやりたいことに指導してくれる教師が既にいるとしたら、それは、あなたがやるに値しないことだ。」
終わり。ありがとうございました。(会場：拍手)